

## 新風館で見つかった室町時代の庭園

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 松吉 祐希

はじめに

新風館は、2001 年にオープンし、2016 年 3 月に閉館した複合商業施設です。鉄筋コンクリートの洋館を核にして中庭やイベントホールで構成されていました。この洋館は、1926 年に竣工した旧京都中央電話局の電話交換施設で、京都市の登録有形文化財となっています。2019 年には、この洋館を残し、ホテルなど複合商業施設に生まれ変わることが予定されています。そのため、昨年秋に発掘調査が行なわれることとなりました。

新風館の敷地は、京都市中京区烏丸姉小路下ル場之町・車谷町に所在しており、平安京左京三条三坊十三町跡・縄文時代から飛鳥時代の集落跡である烏丸御池遺跡にあたります。今回は、この新風館での発掘調査成果についてお話しします。

### 1 史料からみた新風館周辺の歴史（★は新風館所在地の地暦）【図 1】

平安時代・院宮や貴族の邸宅

- (1) 平安時代後期      ★藤原済家や藤原家通の邸宅（『拾芥抄』）  
                          三条三坊十一町 高階為清の邸宅（『山槐記』）  
                          三条三坊十二町 白河天皇、鳥羽上皇、藤原璋子の三条西殿（『中右記』）  
                          三条四坊三町 在原業平の邸宅（『無名抄』）  
                          三条四坊四町 以仁王の高倉宮→藤原成定や平業忠の邸宅（『明月記』）  
                          四条三坊九町 三条南殿（『中右記』）

大治元（1126）年   ★白河法皇の三条東殿。天皇崩御後、待賢門院藤原璋子、鳥羽上皇に受け継がれる

平治元（1159）年   ★源義朝の夜襲により焼亡（『平家物語』『平治物語絵巻』）

### (2) 鎌倉時代・院宮や貴族の邸宅

承久 3（1221）年   ★七条院藤原殖子の御所焼亡（『百練抄』）

### (3) 室町時代・武家の邸宅、商業地

- 室町時代前期  三条坊門小路以北に足利尊氏や直義の邸宅（『太平記』『師守記』）
- 貞治 4（1365）年頃  三条四坊四町  斯波孝経の邸宅（『師守記』）→通玄寺曇華院
- 14 世紀末  三条三坊十二町  綿商人（『祇園社記』）
- 15 世紀前半  〃  酒屋（『北野天満宮文書』）、材木屋（『祇園社記』）
- 16 世紀後半  調査地周辺は商店が並ぶ（上杉家本『洛中洛外図屏風』）

(4) 江戸時代・商業地

★金座の当主である後藤庄三郎の邸宅（『京雀』）

### 2 新風館の発掘調査成果

#### (1) 1991 年度の調査【図 2】

調査面積は 1300㎡。平安時代から江戸時代にかけての遺構を検出しました。江戸時代の遺構の一部は、後藤庄三郎の邸宅と考えられます。調査終了後、室町時代の池は保存のために真砂土の入った土嚢等で養生し、埋め戻しました。

【図のみにするか】 平安時代から鎌倉時代 井戸 4 基  
                          室町時代  東洞院大路、堀、池、井戸  
                          江戸時代  堀、池、建物、柱列

#### (2) 2016 年度の調査【図 3】

1991 年度に検出した室町時代の池の再発掘を行いました。調査面積は約 200㎡。今回の調査で、古段階の池を確認することができ、この池が新旧 2 段階あることが分かりました。新段階の池は、古段階の池を一部改修して造られていました。

#### ① 古段階の池

**池の規模** 東西幅約 12m、南北幅は不明（西辺長 8.9m、東辺長 7.7m）、深さ約 1.4m。

**岸** 南岸・東岸は垂直に近い斜面ですが、西岸は 3 段の階段状になっていました。北岸は調査区外ですが、一部で階段状の岸を確認しました。

**滝** 池の南東隅で石組の滝を確認しました。拳大の石を積んだ基礎の上に、鏡石と滝添石 3 石を組んで滝としていました。滝の取水に関連する遺構や水の流れた痕跡は確認できませんでした。

**陸部** 池の北東隅で方形に張り出した岬を確認しました。この陸部には遣水がつくられました。

**遣水** 陸部の北東隅につくられた石組溝を確認しました。溝は長さ 1.5m、幅 50cm、深さ 30cm でした。溝の底に平坦面を上にした 20～40cm の石を並べていました。水の流れた痕跡は確認できませんでした。

**建物** 池の西岸で建物の東端を確認しました。この建物はほぼ同位置で建て替えが行われていました。またこの建物には、池に張り出した泉殿のような施設も付属していたことが分かりました。

**泉** 池の中央で土坑を確認しました。この土坑は直径 1.6m の円形で、深さは 50cm でした。土坑の底には木製の曲物が据えられていました。この土坑の底の標高は、1991 年度に検出した井戸の底の標高と同じかそれよりも低いいため、この土坑からは水が湧いていたと考えられます。おそらく池の給水施設の役割を担っていたのでしょう。

#### ② 新段階の池

**池の規模** 規模は古段階の池と同じですが、池の底面全体と汀に厚さ 10～20cm ほど土を入れて、その上に石を敷いて、改修していました。

**岸** 西岸・北岸は階段状のテラス面を土で埋めて、緩やかな斜面をつくり、石を敷いていました。東・南岸は古段階の池と同じく、急な斜面でした。

**滝** 大きな改変はありませんが、池全体の改修に伴い、滝の前面にも土を入れたために、滝の基礎は一部埋まりました。

**陸部** 北西部に土や礫を入れて、陸部の拡張が行われました。陸部には一部で粗い白砂を確認していることから、本来は陸部の表面に白砂が敷かれていたと考えられます。またこの陸部の西部には、青磁の鉢と緑泥片岩が据えられていました。この鉢の底には穴が穿たれていることから、植木鉢として利用されていたとみられます。

**遣水** とくに改変はされていません。

**景石** 滝や陸部の全面等、池の様々な場所に配置されました。

### 3 出土遺物（1991年度出土遺物含む）

**新段階の池造成土** 古段階から新段階へ造り替える際に池西岸に積んだ造成土から、15世紀前葉の土師器皿が出土しました。

**陸部** 西部に青磁の鉢が据えられていました。これは牡丹や唐草の文様が施された深鉢で、元代に中国龍泉窯で作られました。

**池の埋土** 15世紀後葉から16世紀中葉の土師器や焼締陶器、瓦器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦、土製品、木製品等が出土しました。とくに、青磁の酒会壺の蓋・耳瓶・馬上杯の脚部、白磁の陶枕等は、非常に珍しい中国からの輸入品です。陶枕は、楼閣や橋を渡る人物像を描いた枕で、元代に磁州窯で作られました。

**堀** 15世紀後葉から16世紀中葉の土師器や焼締陶器、瓦器、施釉陶器、輸入陶磁器、瓦、木製品等が出土しました。

### 4 室町時代の調査地【図4】

出土土器から、池の造営と埋没の時期、1991年度の調査で検出した堀との関係は以下のよう考えられます。

#### ① 14世紀末～15世紀初頭

出土土器から、池の改修時期は15世紀前葉と考えられるため、池の造成は15世紀初頭もしくは14世紀に遡るとみられます。

#### ② 15世紀前葉～中葉

新段階の池は15世紀中葉には埋没が始まっており、16世紀中葉には完全に埋め戻されたようです。堀は、15世紀後葉には埋没が始まり、16世紀中葉には完全に埋め戻されたとみられます。堀の開削は15世紀前葉もしくは中葉と考えられます。この堀は、池の存在した邸宅の周囲を囲む堀だったのでしょう。中世京都では、応仁の乱前後に防御施設として邸宅の周囲に堀を構築した例がよくみられます。調査地周辺は応仁の乱により被災したことが明らかになっており、今回調査した池や堀等の邸宅に関わる施設は、応仁の乱により廃絶したと考えられます。

### 5 邸宅の居住者

今回の調査では、滝や遣水、泉殿のような施設をもつ室町時代の池を確認しました。室町時代の池は全国的にも調査例が少なく、京都市内でも二条家の二条殿、足利将軍家の北山殿（鹿苑寺金閣）、東山殿（慈照寺銀閣）でしか確認されていません。

また池の埋土からは、12～13世紀の輸入陶磁器をはじめとする土器が出土しました。とくに上述した輸入陶磁器は、希少性の高い一級品です。これらのことから、池を備えた邸宅の家主は非常に裕福な階層の人物であったことが推測できます。

先述したように、調査地周辺は室町時代前期には武家の邸宅となった場所でした。また室町時代前半からは商家が立ち並び始め、室町時代後半になると商業地として栄えた状況がみられます。今回の調査地も、武家の邸宅地であった可能性は否定できませんが、商業地として繁栄した周辺の状況を勘案すると、有力な商人の邸宅であった可能性も高いのではないのでしょうか。

### おわりに

新風館の発掘調査では、京都市内でも稀な室町時代の池が検出されました。池のほぼ全域を調査することができたため、岸の様子や泉・滝・遣水・泉殿等の付属施設、さらに池の改修についても確認することができました。出土事例の少ない室町時代の園池の在り方を知る貴重な発掘調査となりました。なお、発掘調査で検出した滝や景石は、新風館の跡地に新たに建設されるホテルに移築されることになっています。



図1 調査地位置図(1:2500)

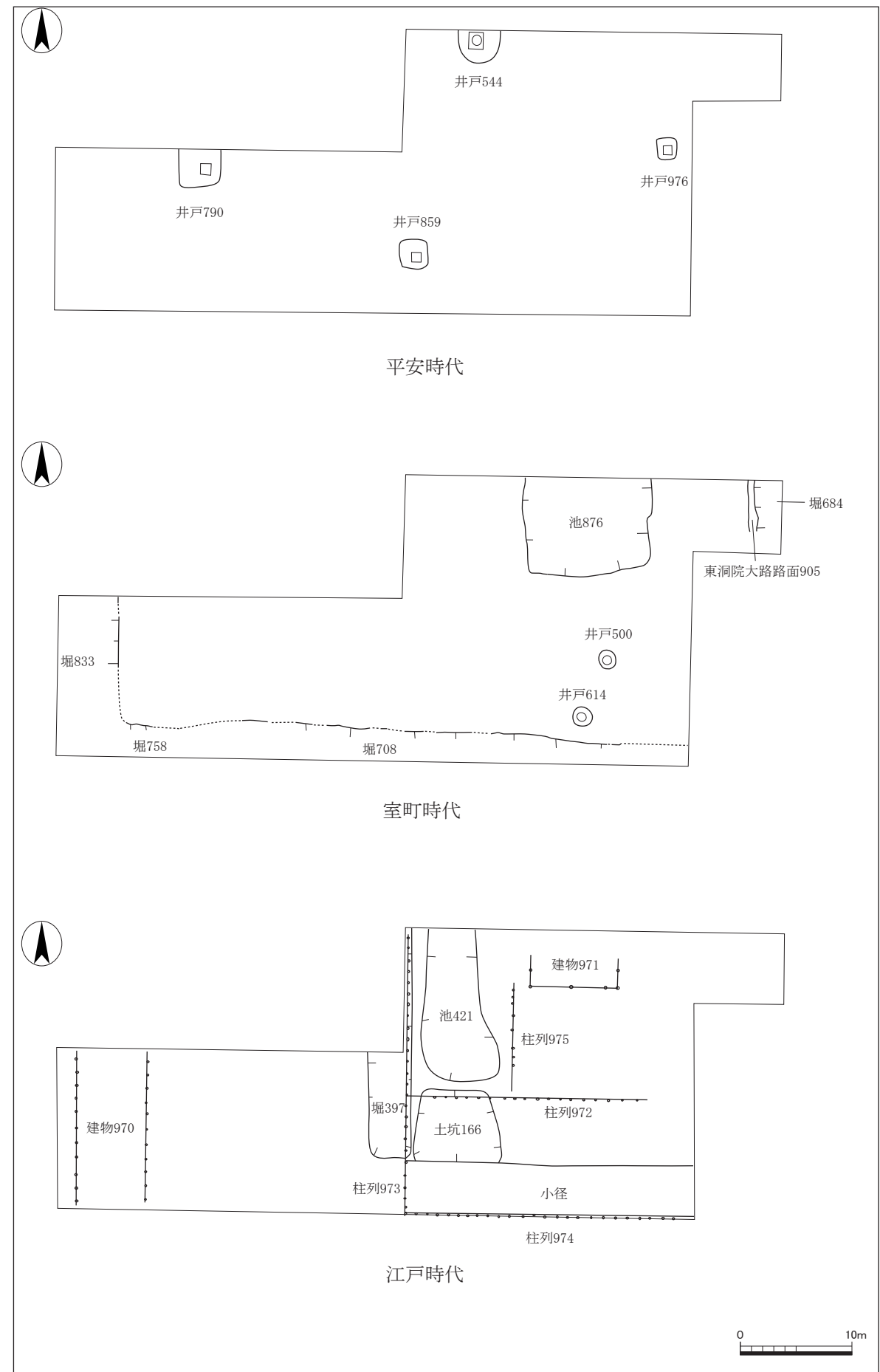


図2 各時代の遺構配置図(1:500)



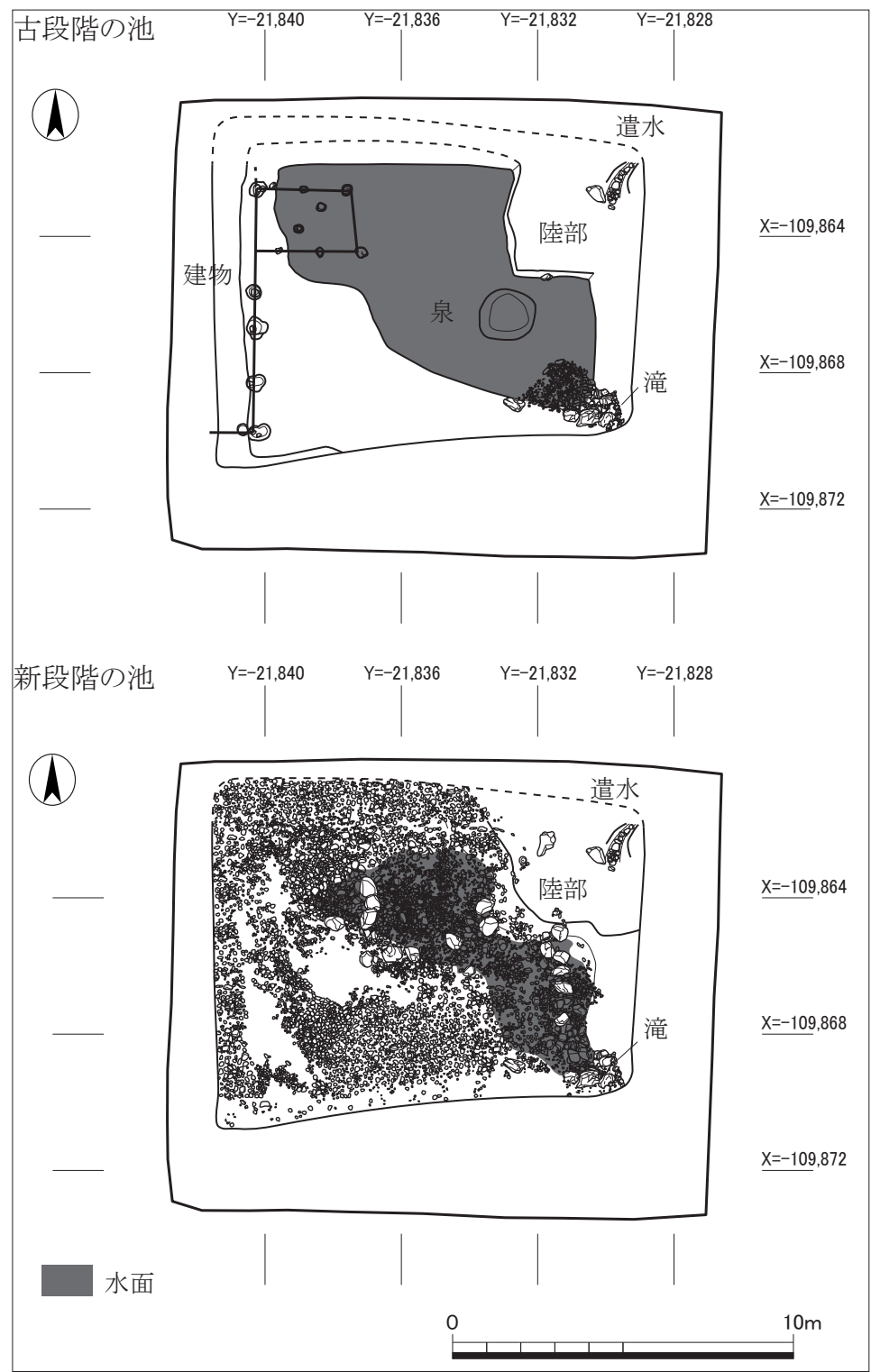


図3 池の推定復原図

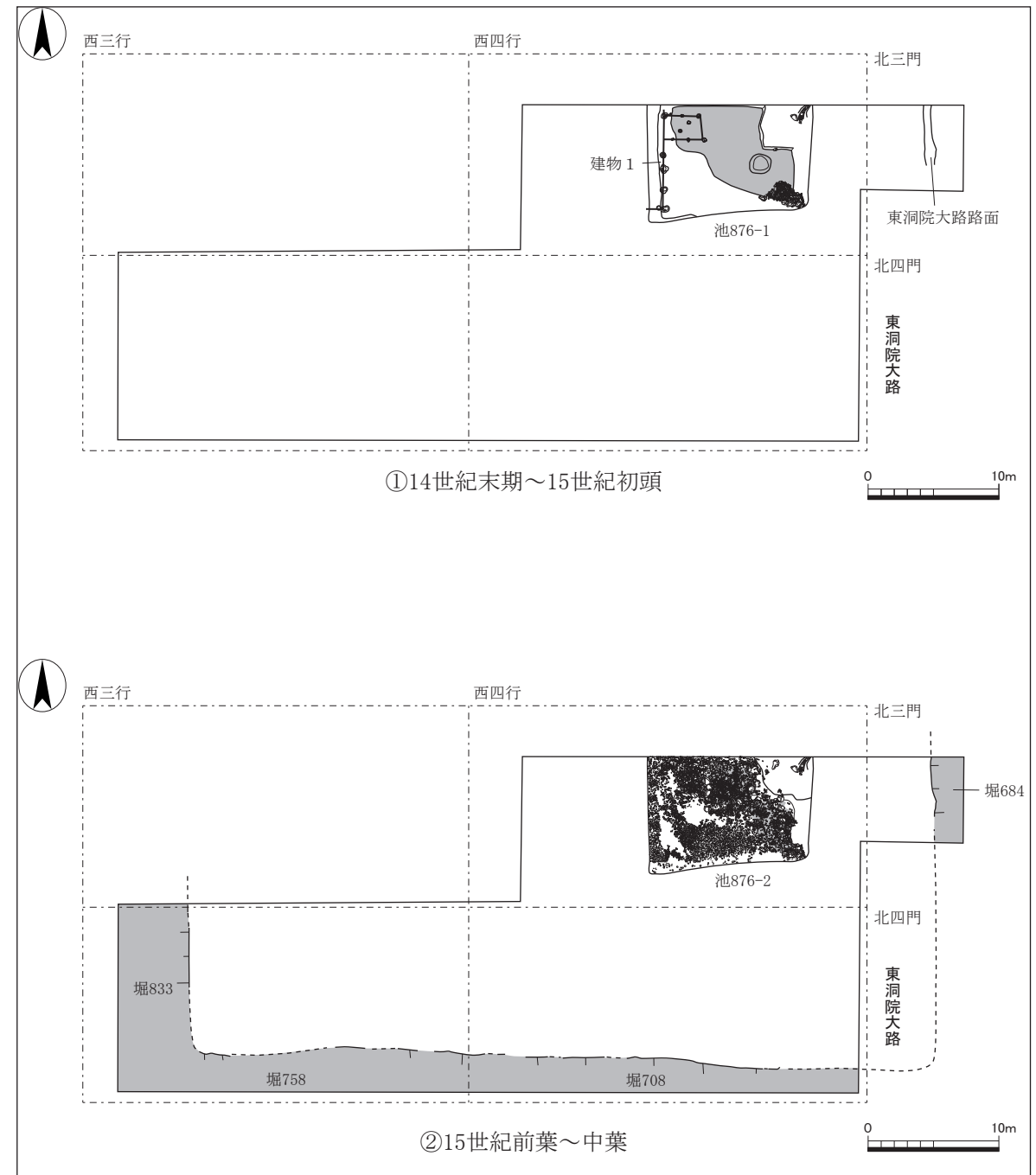


図4 四行八門の想定線と調査区の位置(1:500)